

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月3日
函館市立北日吉小学校

1 本年度の重点教育目標

豊かな心をもち 共に学ぶ 北日吉の子

2 本年度の取組の重点

- ① 創意工夫ある教育課程の編成と教育活動の推進 ② 学年・学級経営と特別支援教育の充実
③ 教師の専門性や指導力を高める研究・研修の充実 ④ 学びの場としての教育環境の整備・充実
⑤ 地域とともにある学校づくりの推進 ⑥ 日常的な危機管理の推進 ⑦ 業務改善の推進による教育活動の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適否	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 確かな学力を育む教育活動の充実	「主体的・対話的で深い学び」および「個別最適な学び・共働的な学び」の充実に向けた授業改善の工夫を図ることができたか。	a	授業改善を一層推進し、より深い学び合いの場を実現するために継続的に研修・実践・検証を進めていく。また、個別最適な学びを充実させるため、個に応じた学習をより工夫していく。	A	A	放課後学習の実施や「人前で話すのが苦手な子」への対応等、一人一人の児童に合わせた細やかな指導を続けていただきたい。
	基礎基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力等を高める個に応じた指導ができたか。	b	各種調査結果を検証し、家庭学習チェックシートの内容の検証及びより効果的な取組に向けての改善を進めていく。また、全国学力学習状況調査で判明した課題に対応し、基礎的事項の習得にも注力していく。	B	B	読書については、「親が子どもと一緒に読むこと」が大切だと考えます。保護者への啓発を行い、親と子が一緒に読書するような機会を作って欲しい。
② 豊かな心を育む教育活動の充実	心に響く道徳教育を通じた人としての生き方、在り方を考える教育活動の工夫を図ることができたか。	a	豊かな心を育む教育活動を推進し、係や委員会活動の他、各教科を含め全領域において道徳性を養っていく。また、発達支持的生徒指導を念頭に、児童への効果的なアプローチの在り方を模索していく。	A	A	特性のある児童への指導や支援の工夫・充実に、引き続き注力して欲しい。
	いじめ未然防止と早期対策に向けた教育活動の工夫を図ることができたか。	b	道徳性を培う授業の実践と、児童アンケートや教育相談等の取組を定期的実施することで実態の把握に努めていく。また、保護者との連携を密にすることで、いじめ未然防止、早期発見と適切な対処を行っていく。	B	B	引き続き、自尊尊重の精神に裏打ちされた教育活動を行っていただきたい。
③ 健やかな体を育む教育活動の充実	望ましい食習慣や進んで運動に親しむ態度を育てる教育活動の工夫を図ることができたか。（食育、体力増進）	a	体力調査で判明した児童の課題を把握し、縄跳び週間等の取組や体育の授業改善を行うことで、運動に親しもうとする意欲と体力の向上を目指す。また、栄養教諭と連携した食育指導と、日常の給食指導の充実を図っていく。	A	A	現在、函館市では「目的に合った公園作り」の議論が進んでいる。校区内の公園についても、今後改善がなされていくので、大いに利用していただきたい。
	自ら健康で安全な生活を営む能力や態度を育てる教育活動の工夫を図ることができたか。（保健、生活）	b	「引き渡し訓練」や、想定される状況に応じたより実践的な避難訓練を実施していく。また、Tetoru を効果的に活用した迅速で適切な情報発信を行っていく。	A	A	
④ 教職員の専門性を磨く研修の充実	教育目標の実現に向けて教職員がより専門性を高めるために研修に取り組むことができたか。	a	教職員が各種研修により参加しやすくなるよう、校内での支援体制の拡充に努める。また、研修の成果を全員で共有、活用していけるよう、校内研修の工夫を図る。	A	A	
	学校における業務改善に向けた取組を進めることができたか。	a	PDCA サイクルを生かし、真に必要なかつ効果的な取組の洗い出しに努め、校務支援システムやICTを活用して業務改善を進めることで質の高い教育活動の維持向上を図る。	A	A	
⑤ 家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	コミュニティ・スクールの取組やPTA 活動等を通して、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	a	今年度大きく変更した形を継続し、「持続可能」をキーワードとして、誰もが参加しやすく達成感を得られるようなPTA 活動の在り方を模索していく。また、アフタースクールや登下校の見守り等、地域や保護者と連携した教育活動を一層推進していく。	A	B	CSの活動をもっと保護者に理解してもらえような取組を行っていただきたい。
	家庭・地域・学校がめざす子ども像や教育目標、学校運営の基本方針を共有することができたか。	a	今年度の合い言葉「相手の気持ちを考える」のように、児童に対しては、焦点を絞ってわかりやすく「めざす姿」を提示していく。保護者、地域に対しては、学校教育目標・重点教育目標、教育課程について、共有化していくための情報発信の在り方について更に検討・改善を進める。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。